# 館長だより

山形県産業科学館

令和６年７ 月４日(木)

発行 館長　加 藤 智 一

## Well-being（ウェルビーイング）

少し古いデータではあるが 2017 年以前、全国で入浴事故死は年間約 1.4 万～1.9 万人いたと推計されています。冬期、自宅で生活する高齢者の間で多発しているとの報告があり、入浴事故の予防啓発が行われてはいましたが十分に浸透しているとは言えない状態でした。

方や 2024 年版「交通安全白書」によると、去年 1 年間で交通事故により亡くなった人は、前の年より 68 人多い 2678 人で、2015 年以来、8 年ぶりに増加しています。交通事故で亡くなる方より、自宅のお風呂で亡くなる方が圧倒的に多いという事実。入浴事故は６０歳代から多発し、基礎疾患のない方でも発生し、特に寒い日は要注意。

東北芸術工科大学の三浦秀一先生の話しでは、「２倍の断熱材（断熱材グラスウール壁 20cm 屋根 40cm 窓三重ガラス）で半分のエネルギーで快適生活」とは住宅の話。身体的、精神的に健康な日常生活を行うための仕組みが重要視される時代、ウェルビーイングという言葉が、再び注目されるようになってきました。

1946 年に署名され、日本では、1951 年に公布された WHO 憲章の前文でスーミン・スー博士が定義した「健康」とは、次のように定義されていました。『「健康」とは、肉体的にも精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされた状態にあることをいう。』と。73 年も前の話ですよ。現在再び注目されているウェルビーイングの解釈は、『身体的・精神的に健康な状態であるだけでなく、社会的・経済的に良好で満たされている状態』を言っているようです。

これからの世界を生きる私たちに求められているのは、地球温暖化対策およびカーボンニュートラル社会の実現と、社会モラルの変化および経済成長が両立している世界です。消費することで豊かさを実感できた暮らし方は改めなければなりません。物に頼らない豊かさの追求、最新の科学技術を駆使し自然と共生しながら人生を謳歌できる価値観のバージョンアップが求められているのではないでしょうか。

## 井村屋のあずきバー

７月１日は井村屋のあずきバーの日です。知らなかったでしょう。私も朝日新聞の広告欄見て知りました。「あずきバー大好き!」という人は、私に限らず全国に多数存在するはず。

昨年、発売５０周年を迎えた「あずきバー」は、原材料にあずき、砂糖、水あめ、食塩の４種類だけというシンプルさ。一本のあずきバーには、あずきが１００粒入っているとか。

これだけ長い間作られ続けてきたわけだから、当然最新技術は欠かせない。基準を満たしたあずきを瞬時にエアーで弾き飛ばす選別機（同じような物を山形カシオの工場で見たような気がする）や、従来の２倍速でアイスを凍らせる機械が製造現場を支えています。

しかし、肝となる「あん炊き」は、今も職人達の五感だけが頼りだとか。このトップシークレットの手法は、あずきの顔を見て判断するのだそう。

朝ドラのカムカムエブリバディのような感じでしょうか。おいしくなーれ、おいしくなーれ。

マルチパック

発売当初のあずきバー

井村屋のホームページより拝借